

ブリ種苗放流技術開発事業*

概要

中地 良樹

目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発調査事業で、本県沿岸域におけるブリの満 1歳魚以降の分布、生態を究明するため、標識放流と漁獲実態等の関連調査を継続実施している。

詳細は「ブリ種苗放流技術開発事業、平成 7年度報告、社団法人日本栽培漁業協会」として別途報告したので、概要を述べる。

方 法

1 標識放流調査

標識放流は、1995年11月27日に和歌山県西牟婁郡すさみ町里野沖にメジロ級（天然魚：11月22～23日に里野定置網に入網）205尾を実施した。この放流群を「'95里野放流群」と呼ぶ。

2 関連調査

加太、串本の 2漁協で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅中央、白浜 3港（白浜、富田、椿の 3支所）、里野の 4ヶ所で標識率調査を実施した。

結 果

1 標識放流調査

標識魚の再捕は、平成 6年度放流群（'94A、'94B白浜放流群）および平成 7年度放流群（'95里野放流群）で、平成 5年度以前の放流群の報告はなかった。

(1) '94A白浜放流群（'95. 2.27 140尾放流、メジロ級養殖魚 図 1）

追加報告は12件で17尾が再捕された。このうち 3件（再捕日の詳細不明 1件を含む）は前報以前に再捕されたが報告が遅れていた。春季の再捕は、1995年 4月では 9日（放流41日後）に田辺湾の一本釣り 1尾と再捕日・場所不明の一本釣り 1尾、1995年 5月 1日（放流63日後）に高知県室戸岬沿岸の定置網で 1尾、5月20日（放流82日後）にすさみ町里野定置網で 1尾の 4件、4尾だけであり、秋季最初の再捕である 9月29日まで夏季再捕は全くみられない。秋季以降の再捕は1996年 2月 6日（放流 345日後）まで 5件あり、1995年11月15日（放流 261日後）の高知県土佐清水沿岸の飼付けによる 1尾を除いて、すべて紀南沿岸域である。再捕魚のうち遠隔移動した 2個体は、1995年 5月 1日の高知県室戸市三津沿岸の定置網の 114.8kmと1995年11月15日の高知県土佐清水沿岸の飼付けの 233.4kmである。追加報告の漁具別再捕尾数は、釣り14尾、定置網 2尾、飼付け 1尾であった。

本放流群の再捕状況は、合計49尾で再捕率は35.0%となった。漁具別再捕尾数は、一本釣り 39尾、定置網 7尾、飼付け、まき網、釣りが各 1尾であった。

* ブリ種苗技術開発事業費による。

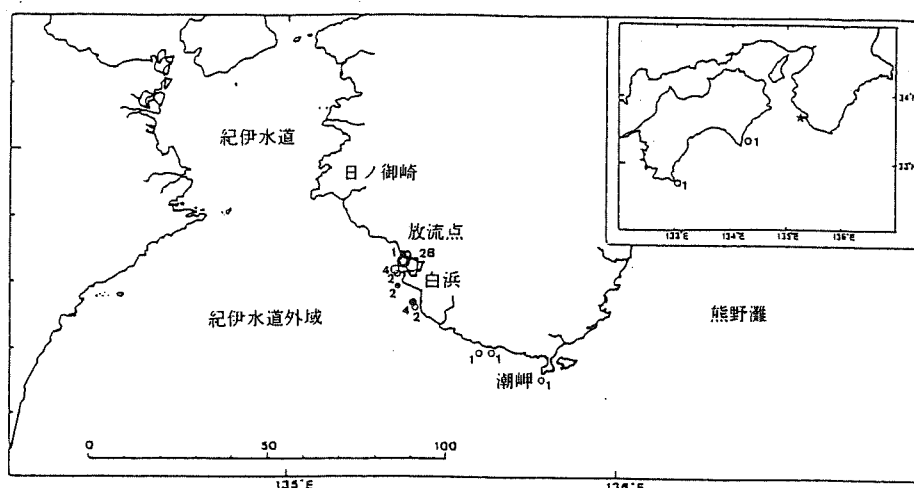


図1 '94A白浜放流群('95.2.27 140尾放流 メジロ級養殖魚)の再捕場所
 (黒丸：前年度報告, 白丸：追加報告)
 (再捕合計 49尾, 不明1尾は図中に含まず 再捕率 35.0%)

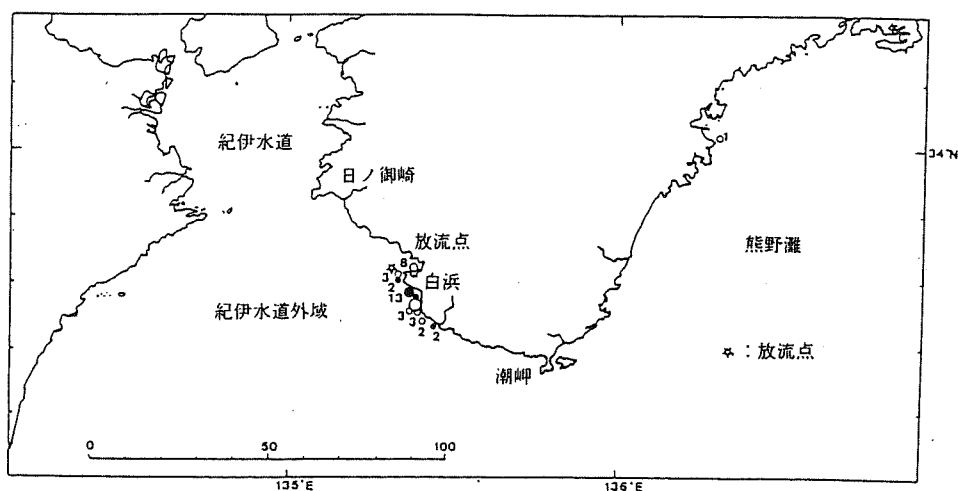


図2 '94A白浜放流群('95.2.28 140尾放流 メジロ級養殖魚)の再捕場所
 (黒丸：前年度報告, 白丸：追加報告)
 (再捕合計 59尾, 再捕率 42.1%)

(2) '94B白浜放流群 ('95.2.28 140尾放流, メジロ級養殖魚 図2)

追加報告は14件で15尾が再捕され、前記群同様に報告の遅れが1件ある。このうち春季再捕は3件、3尾であり、いずれも放流76~77日後の1995年5月15~16日の間に高知県室戸岬沿岸の定置網へ入網した。本放流群でも'94A白浜放流群と同様に1995年9月26日まで夏季再捕はみられない。秋季以降の再捕は、1995年11月5日(放流250日後)の高知県室戸岬沿岸の定置網1尾と1996年3月1日(放流367日後)の三重県九木沿岸の定置網1尾を除いて、すべて放流地点の白浜町付近の沿岸域に限定された。秋季以降の再捕魚では、9月の2個体は体重3.9kg、4.7kgであるが11月以降の個体は5.0kg以上であり、前述の九木再捕の個体は8.0kgに成長していた。三重県での再捕個体はこれまでの再捕結果同様にブリ級に成長していることも興味深い。

再捕魚で遠隔移動した 5 個体のうち 4 個体は高知県室戸市沿岸で移動距離は 104.5～107.2km、1 個体は三重県九木沿岸で 108.3km であった。

'94A, B 白浜放流群の追加報告の再捕日と再捕場所から放流魚の分散を検討すると、遠隔移動する個体と紀南沿岸付近に滞留が示唆される個体に区別されそうであるが、夏季の再捕がこれまで極めて少ないことから詳細は不明である。追加報告の漁具別再捕尾数は、釣り 7 尾、定置網 7 尾、刺網 1 尾であった。

本放流群の再捕状況は、合計 59 尾で再捕率は 42.1% となった。漁具別再捕尾数は、一本釣り 21 尾、定置網 23 尾、曳縄 14 尾、刺網 1 尾となった。

(3) '95 里野放流群 ('95.11.27 205 尾放流, メジロ級天然魚 図 3)

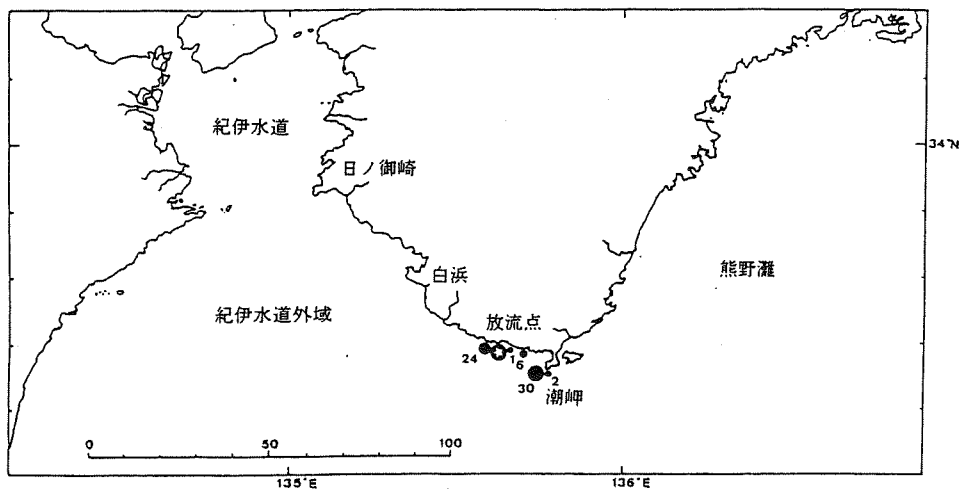


図 3 '95 里野放流群 ('95.11.27 205 尾放流 メジロ級天然魚) の再捕場所
(再捕合計 65 尾, 不明 2 尾は図中に含まず 再捕率 31.7%)

本放流群は、'92 里野放流群 (供試魚は天然魚) と放流場所・放流時期 (平成 4 年 11 月 28 日) とほぼ同じである。供試魚の入網のあった 1995 年 11 月 22～23 日以前は紀南沿岸の天然礁における一本釣り (飼付け) 漁は本格的な漁業に至っておらず、すさみ町江須崎沿岸域で曳縄 (テンテン釣り) 漁が僅かにみられる程度であり、放流直前に紀南沿岸域でメジロ一本釣りの初漁となる。この様なことから本放流群の再捕は、放流翌日から始まり 1996 年 1 月 31 日の再捕まで 58 件の 65 尾、再捕率は 31.7% となった。再捕場所は '92 里野放流群と極めて類似しており、すさみ町見老津平瀬 (旧見老津飼付け漁場) 24 件、24 尾と潮岬西岸のシアイ瀬 29 件、30 尾を主として、これ以外の再捕場所もすべて紀南沿岸域であった。潮岬沿岸のメジロ一本釣りは 1 月下旬にほぼ終漁したことから 1 月 31 日以降の再捕はみられなかった。

漁具別の再捕状況は、一本釣り 59 尾、小型定置網 6 尾となった。

2 関連調査

(1) 銘柄別漁獲量調査

加太：ツバスは 9 月に全漁獲量の 84.4%、1.3 t の漁獲で前年の約 2.0 倍、1.3 t であった。しか

し、ハマチは前年の5.5%、1.0tと大きく下回り、メジロも前年の47.6%、8.1tと減少し、特に10月以降の漁獲減少が顕著であった。

串本：ツバスは近年でも極めて低調であった前年の約2.0倍、0.6tで依然低調であった。ハマチも前年を大きく下回る23.2%、2.7tであり、メジロも前年を下回る23.6tで'93年とほぼ同水準であった。釣りによるメジロの減少が目立った。ブリは前年に続き定置網による漁獲増で前年の1.3倍、33.3tであった。

(2) 漁獲尾数調査

加太：ツバスは、前年の2.1倍、2,603尾で盛漁期の9月上～中旬に漁獲の81.8%を占めた。しかし、ハマチは前年の16.7%、821尾とかなり下回り、漁獲は11月下旬～12月上旬に僅かにみられた。メジロも前年の34.2%、2,239尾でかなり下回った。

湯浅中央：ツバスは前年の43.1%、226尾と下回ったが、ハマチは前年並みの1,315尾となり、メジロは前年の約1.5倍、250尾で依然低調であった。

白浜：ツバスは僅か24尾で平成5年以降は50尾以下の激減状況であるが、ハマチはほぼ前年並みの1,545尾で初漁が11月初旬であった。メジロもほぼ前年並みの919尾、漁獲は11月と3月多かった。

(3) 有標識率調査

加太の釣りによる標識魚の再捕はツバスが3尾であり、有標識率は、全銘柄では0.05%、ツバスでは0.12%であった。

湯浅中央の釣りと定置網による標識魚の再捕は、ツバス1尾だけで、有標識率は、全銘柄では0.05%、ツバスでは0.44%であった。白浜（白浜本所および富田浦、椿の2支所）における標識魚の再捕はメジロ9尾だけで、ツバス・ハマチの再捕はみられず。白浜における有標識率は、全銘柄では0.35%、メジロでは0.98%であった。調査地別の標識魚の再捕状況および銘柄別有標識率は、白浜本所2尾、富田浦1尾、椿6尾で、白浜本所では全体で0.13%、メジロで1.18%、富田浦では全体で1.04%、メジロで1.39%、椿では全体で0.74%、メジロで0.95%であった。

里野の定置網による標識魚の再捕は、ハマチ、メジロが各1尾であり、有標識率は全体では0.10%、ハマチでは0.14%、メジロでは0.08%であった。

調査地4ヶ所すべてで標識魚は確認されたが、いずれも従来同様1%未満で極めて低かった。